

Topics 理数科1年生が乗鞍岳研修を行いました。

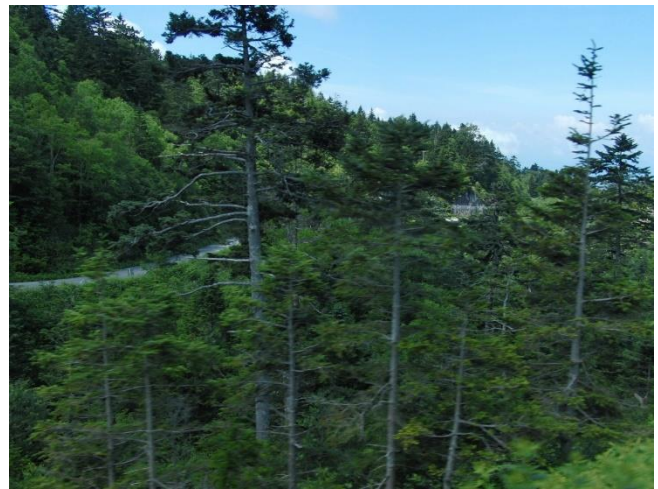
理数科1年生は7月19日(水)に乗鞍岳畳平にて、高山植物を中心とした野外観察を行いました。乗鞍岳(3026m)は標高2700mまでバスで登れる山です。バスの車窓から標高とともに植生が変化していくことを観察できる貴重な場所です。生物の授業ではバイオーム(環境と動植物の関係)の分野で標高と植生の関係について学習します。

幸いに天候に恵まれ、時折晴れ間がのぞく中、気温が15℃ほどの涼しい環境で研修を行うことができました。研修では、乗鞍岳畳平のお花畑と、魔王岳を中心に高山植物の観察を行った後、グループごとにテーマをもって調査観察を行いました。



山地帯の夏緑樹林

落葉広葉樹であるミズナラやダケカンバが分布しています。

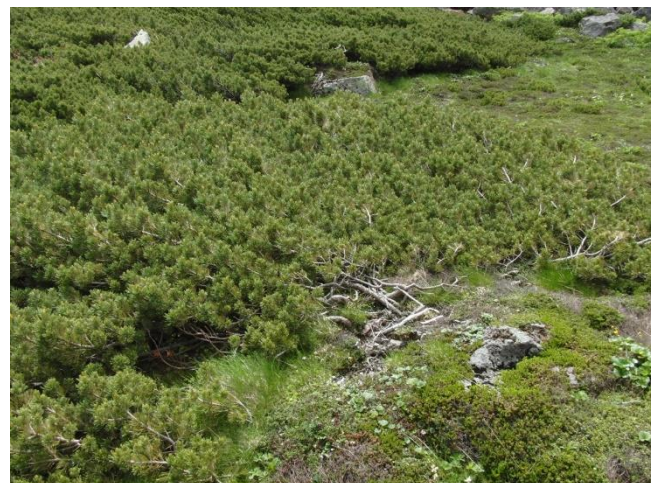


亜高山帯の針葉樹林

コメツガやシラビソなどが分布しています。



森林限界を超え高山帯になると、背の高い樹木はなくなりハイマツや高山植物が分布します。





豊平駐車場からお花畑、摩利支天岳を望む。斜面はハイマツが分布し、一部には残雪が見られます。

お花畑は遊歩道によって一周することができます。
白いハクサンイチゲが満開でした。





畳平駐車場の北にある小さな山頂の魔王岳（標高 2764m）まで登りました。



全体での植物観察の後、グループごとのテーマに沿って調査観察を行いました。

お花畑で見られた高山植物



ハクサンイチゲ（白色）



ミヤマキンバイ（黄色）



コイワカガミ



タカネノコマノツメ



クロユリ

お花畑は畳平駐車場の南にある谷に広がっています。雪解け水が集まる場所で、ハクサンイチゲ、ミヤマキンバイ、クロユリ、コイワカガミ、キバナシャクナゲ、アオノツガザクラ、ミネズオウ、ミツバオウレン、ミヤマダイコンソウ、チングルマ、ウラジロナナカマドなどの多くの高山植物が分布します。雪解けの速い場所から芽吹き、花を咲かせるため、同じ植物でも場所によって、花の状態が違っていました。夏のコバイケイソウやシシウドなどの背が高くなる植物は見られませんでした。

魔王岳で見られた高山植物



コマクサ



イワツメクサ

お花畑と魔王岳の斜面では高山植物の種類も違っていました。斜面の砂利が分布する場所ではハイマツの間にコマクサやイワツメクサ、オンタデなどが見られました。

乗鞍岳でも問題となっているのは外来植物の侵入です。この日もボランティアの方々が、高山植物の間に入り込んだ外来植物を駆除していました。乗鞍スカイラインが一般車両乗り入れ禁止になり、観光や登山の客が制限されるとともに植生が回復してきていますが、遊歩道の周りには、靴などについてきたタネから、低地や外来の植物広がっていきます。むやみに立ち入らないことが乗鞍の植生を守ることに繋がります。



遊歩道脇のセイヨウタンポポ